

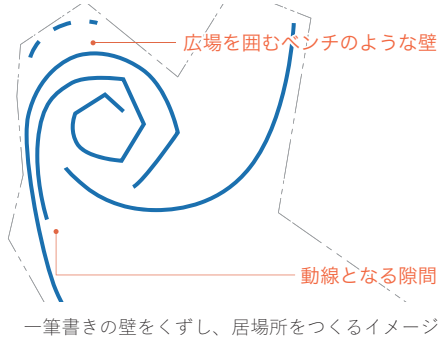
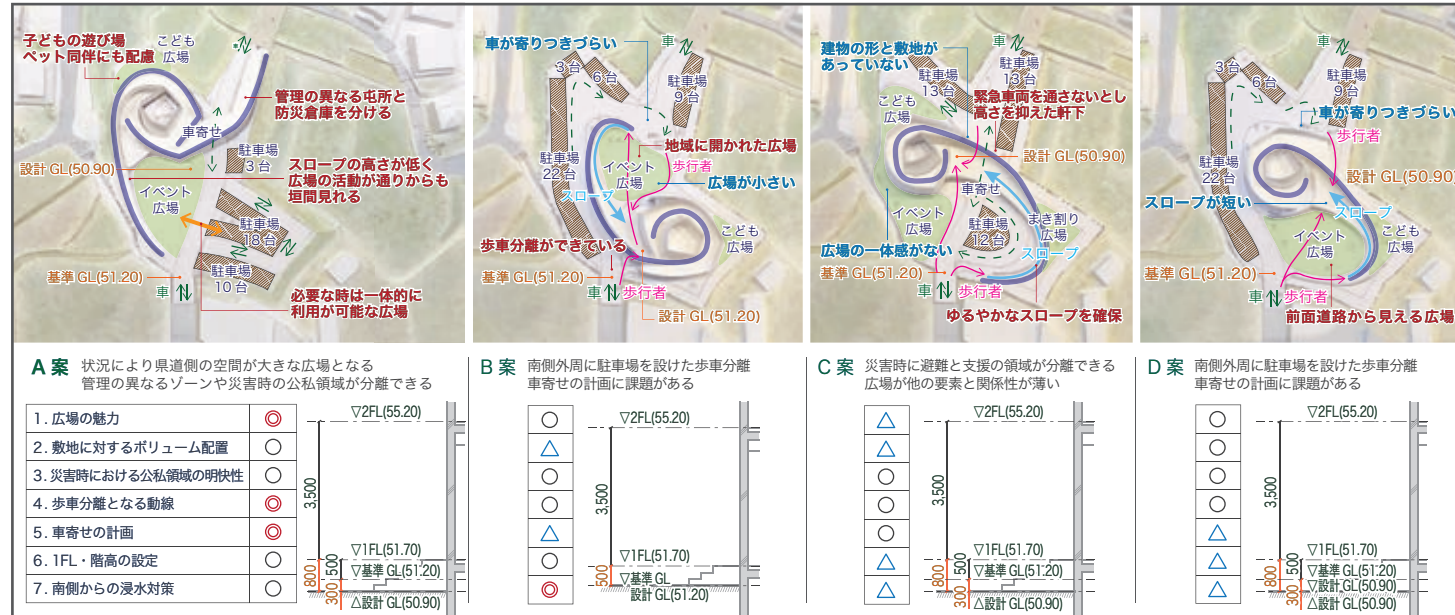
3. 2. 2 基本設計案

南北に開かれたらせんをつくる

プロポーザル案における動線の課題から、敷地に対する建物の配置そのものから再検討し、4つの方向性の案で比較を行いました。歩車分離や車で利用のしやすさといった動線のほかにも、建物が広場と一体的に利用できること、災害時における浸水対策が十分であることといったバランスから、北側に配置する案となりました。

ワークショップの時に北側からは遠回りしなくてはならないという意見もあったため、一筆書きの壁をくずした螺旋とすることで、人だけではなく光や風にも開かれた、より豊かに場所をかたちづくる新しい形態を取り入れた解決案として進めることになりました。

配置計画の再検討にあたっての比較検討表

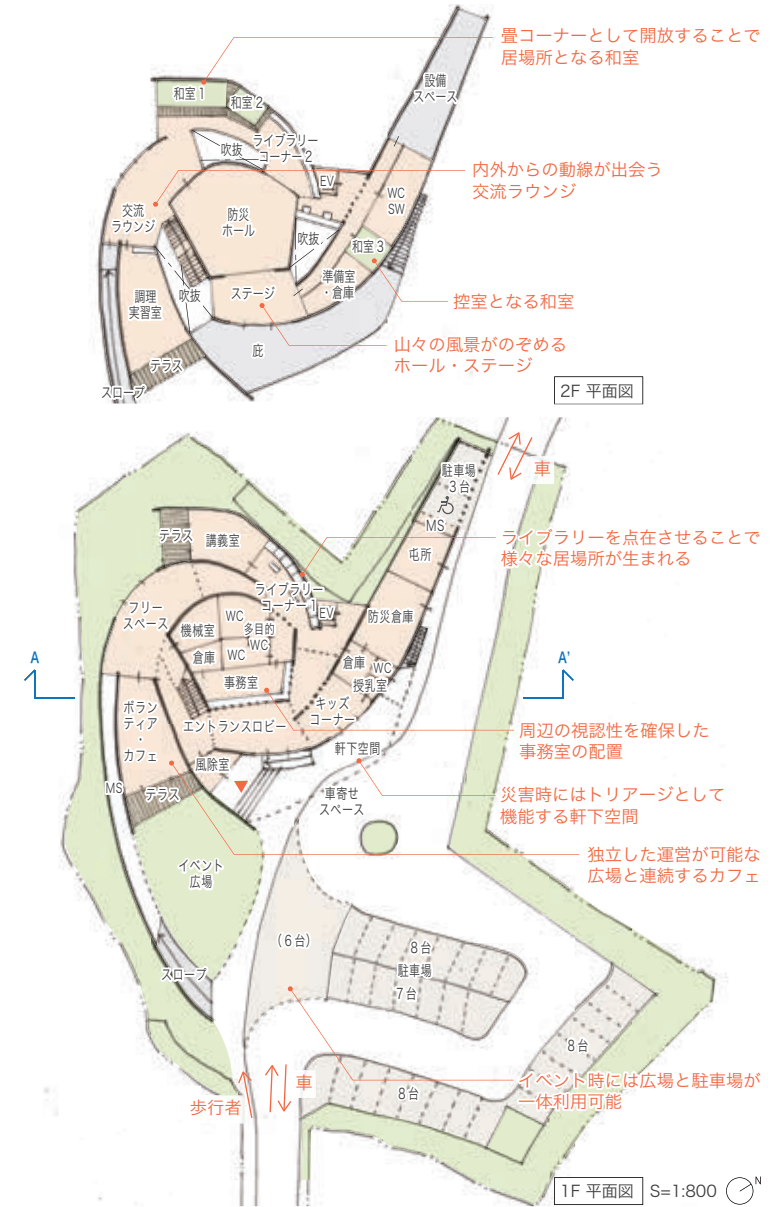
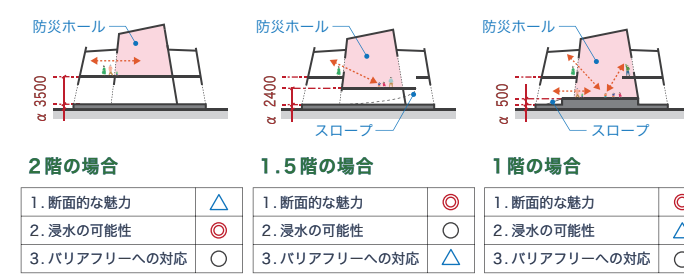


審査員も交えた提案の再確認 - 経過報告会 -

プロポーザル案から配置が変化するため、審査委員長である山本理顕氏をはじめ、各審査員の方々に最新案を説明し、アドバイスを頂きました。配置に関しては「プロポーザル時よりも良くなった」とコメントをいただき、また形態についても「建物が2方向に向かって伸びていくことが、よりコンセプトを発展させたものになっている」と評価を受けました。

床をスキップフロアにし、防災ホールを1.5階にすることで、より各階に多彩な関係が生まれるような案も検討しましたが、バリアフリーや防災上の安全性の観点から、やはりシンプルな2階建とすることになりました。

防災ホールの配置検討



この場所ならではの未来を思い描く - 熊野高等学校 / 第1回住民ワークショップ -

第1回目となるワークショップは、熊野高等学校の「くま・みら・カフェ」にて開催されました。熊野町役場の生涯学習課・榎並課長(当時)が金色のカツラをかぶりながら登場すると、高校生たちは一気に笑いの渦となりました。そのようなリラックスした雰囲気の中で、模型を囲みながらグループに分かれ、新しい防災センターはどのような場所になると良いかを考えたところ、「いろんなスポーツができる場所がほしい」「床を畳にする」「温泉の大浴場」「個室をいつでも作れる設備」などの、たくさんの自由な意見が出されました。また、地域カフェについても「自分たちで野菜を育てながらカフェを運営してみたい!」など、明るい前向きな意見もたくさん頂きました。

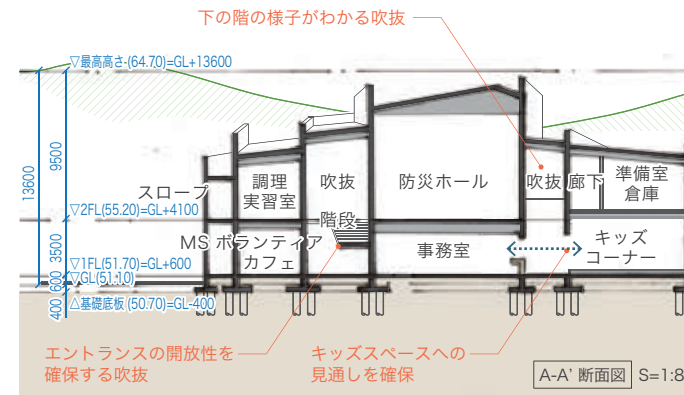


こんな意見がありました

熊野高等学校
子どもが遊んでも安全な大きなキッズコーナー／運動不足にならないようなトレーニングのできる場所はどうか？／図書館やスタジオ、いろんなスポーツができる場所がほしい／電気を貯められる仕組み／仕切りや、個室がいつでもつくられるような設備があるといい／食料や医療品を置いておけるような大きな倉庫／床が畳になったスペースがあると良いのではないかな／ドッグランや専用の部屋があったりするペットスペース

地域住民の方々
マルシェをしたり皆で映画が見たい！／夜にも集まれるといい／地域や季節のイベントをしたり、発表や展示に使えるようにしたい／散歩のルートにできるような道になるといい／非常時にも使えるパーベキューセットや場所があるといい／外から来た人も立ち寄れるような地元野菜の販売所／入浴施設がほしい！／気軽に使えるキッチンや給湯コーナーがあるといい／少数でも大勢でも使えるような狭い部屋・大きな部屋／リハビリを兼ねた健康のためのトレーニングセンター／高齢者の知恵を若者や子どもたちに伝えたり、炉端で語れるような場／コンサートができるような大ホール

熊野第二小学校
図書室にはたたみの部屋があり、ねころんで本が読めるといい／メディアルームや学習室、音楽室や工作室など／将棋やオセロ、トランプができるような場所だったり、季節の絵が描かれているような、遊べる部屋／筆体験コーナーがあるといい／入り口に回収ボックス／水遊びや遊具があり動物とふれあえる場所／避難の時にペットがいられる部屋／部屋の名前を自分たちでつけたい



まちを活性化する地域カフェやキッズルーム - 第2回ワークショップ

第2回目のワークショップでは、特に地域カフェやキッズルーム、調理実習室について具体的なご意見をいただき、お茶とお菓子を楽しみながら、和やかに話をするワークショップとなりました。特に調理実習室に関しては、普段公民館を利用している方々から、具体的な意見をたくさん頂き、調理をした後に皆で食事ができる調理台のあり方や、鍋にあったシンクの大きさなど、多くのことが提案に反映されました。各部屋を使う時のことを具体的に想像し、部屋の大きさや明るさについてなどの質問も多く出ました。

カフェにあると良いもの

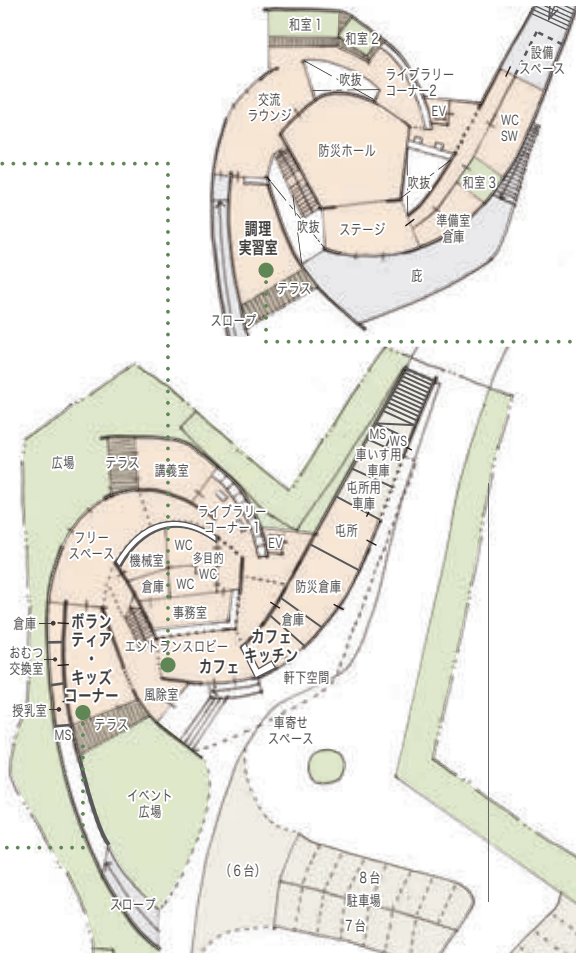


- ・野菜や花などを販売できるコーナーが隣り合っているといい
- ・作業着でも来れるような場所で、汚れ落としがあり、そのような服や麦わら帽子を掛けられるようにしてほしい
- ・地酒や、黒豆を使った煮物などの料理
- ・テーブルを重視した場所で、キッチンカウンターがあるといい

キッズコーナーにあると良いもの



- ・おもちゃや絵本があるといい。家で眠っているものを持ち込んではどうか？
- ・世代間でふれあえるような仕組みづくりができるとうい
- ・天井が高く大きな窓のある開放的な空間
- ・色々な子どもたちが遊べ、それぞれに使い勝手のよいものにしてほしい



調理実習室の使い方や必要なもの



- ・配膳や盛り付けるスペースがあり、公民館祭りでも使える大きなテーブルなど、自由度が高い場所にしてほしい
- ・八寸をつくったり、炊き出しに使えるような平窯があってほしい
- ・コンロは2口で6台はほしい。電気ではなく災害に強いガスはどうか
- ・大きな鍋を洗えるようなシンク
- ・高さや幅のちがいが、また車いすの人も利用できるシンクがいい

こんな意見もありました

調理実習室

イベント時に使えるパーベキューセットがあるといい／食器棚はなるべく多くの食器が入るもの／料理教室ができる／シャワーのようにのびる蛇口がほしい

カフェ

短期間として外部に委託してはどうか？／ビールやウォーターサーバー／常に営業してほしい／150円などでコーヒが飲めて、2～300円くらいで利用できるといい

キッズコーナー

夕方までだと利用したくてもできないことがあるので夜にも使えるといい／ボウリングやカラーボール遊び／PCやTVで遊べるようなコーナー

新しい防災センターのヒントを探す見学会

実際に出来上がる空間をイメージするため、設計者 o+h が過去に設計した「多賀町中央公民館 多賀結いの森」と「Good Job! Center KASHIBA」を、役場の担当メンバーとアドバイザーの小野田泰明氏、o+h で見学。実際にコンペから竣工まで携わっていた町の担当者や、運営をしている方々から、プロセスで苦労したことや楽しかったこと、使い勝手や今後の提案に反映できそうなことについて話を伺いました。多賀町中央公民館では、公民館としての機能を持ちつつ、避難所としても使われる場であり、本防災センターに機能が似通っていたため、様々な意見交換を行うことができました。Good Job! Center KASHIBA は不定形の形をしているため「このような形は使いづらいか？」という質問も出ましたが、センター長の森下氏より「このかたちがものづくりや活動に刺激を与えており、むしろ楽しんでいる」と意見を貰い、皆が場を自由に使いこなしていることを体感出来たと思います。



様々な人が自分の居場所を見つけつつ、お互いの気配を感じられるひとつながりの空間となっている Good Job! Center KASHIBA の内観



多賀町中央公民館「多賀結いの森」

滋賀県にある、新しいまちづくりの拠点として町の木材を使って建てられた平屋の公民館です。約300席のホールや明るい児童室、広々とした調理室、多目的に使える土間ホールなどがあり、また皆が気軽に立ち寄れるような様々な居場所が共用部につくられています。様々な向きに架けられた屋根によって天井の低い場所や高い場所が生まれ、屋根の隙間からは光が差し込み、雁行してつながる空間からは多賀の山々が垣間見えます。



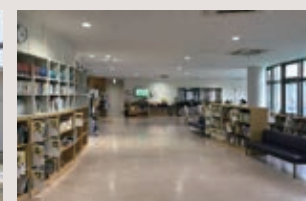
Good Job! center KASHIBA

奈良県にある、障がいのある人とともにこれからの働き方について考えるための施設です。「ちがいを認め、ちがいを大切に」をコンセプトに、大きなひとつながりの空間を木造の壁によって緩やかに分けることで、明るさや広さの異なる多様な居場所が生み出されています。地域に開かれたカフェや工房、ショップやストックスペースがあり、障がいのある無しに関わらず、思い思いに働くことの出来る場所となっています。



くまの・みらい交流館

見学会のほかにも、o+h では「くまの・みらい交流館」「熊野東公民館」といった熊野町にある施設も訪れ、防災や調理といった新しい防災センターにも備わっている機能面について、施設内の設備を確認したり、今後も使う予定の備品を調べたりといったリサーチを行いました。



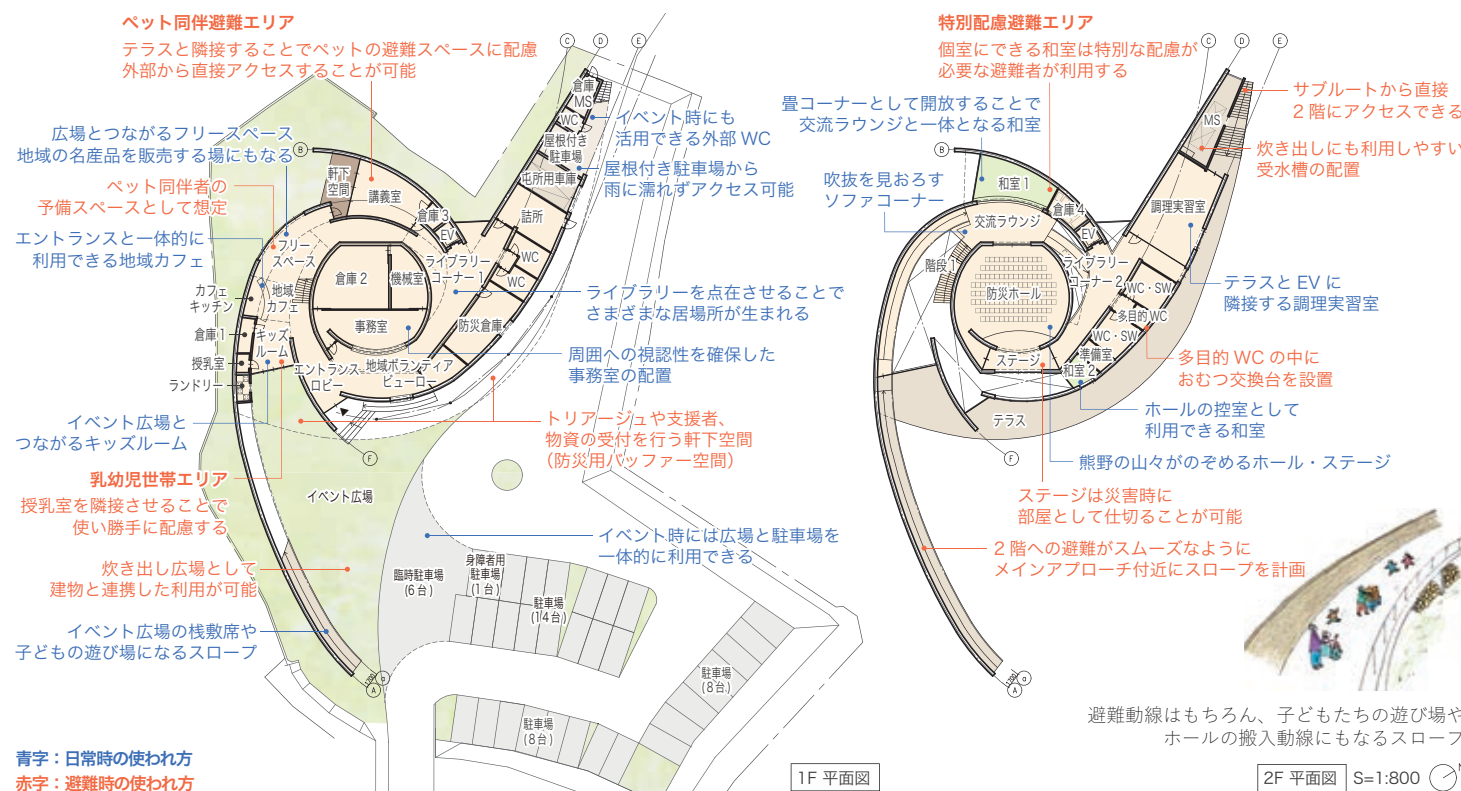
熊野東公民館



対話を続けながら定まった大きな方向性 - 基本設計案 -

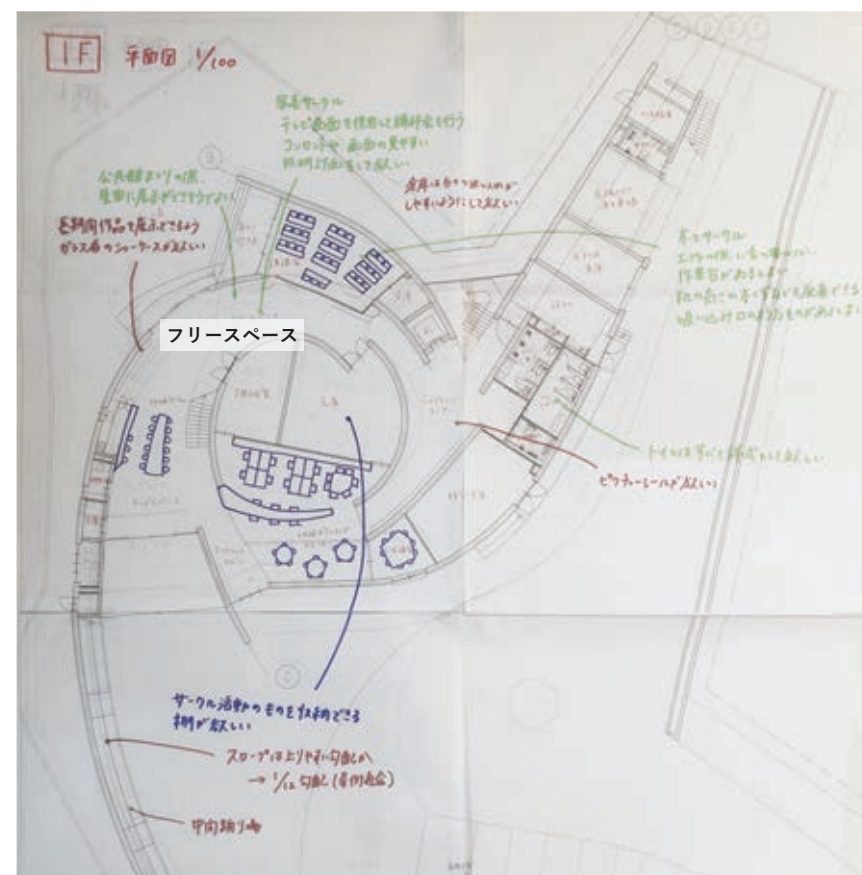
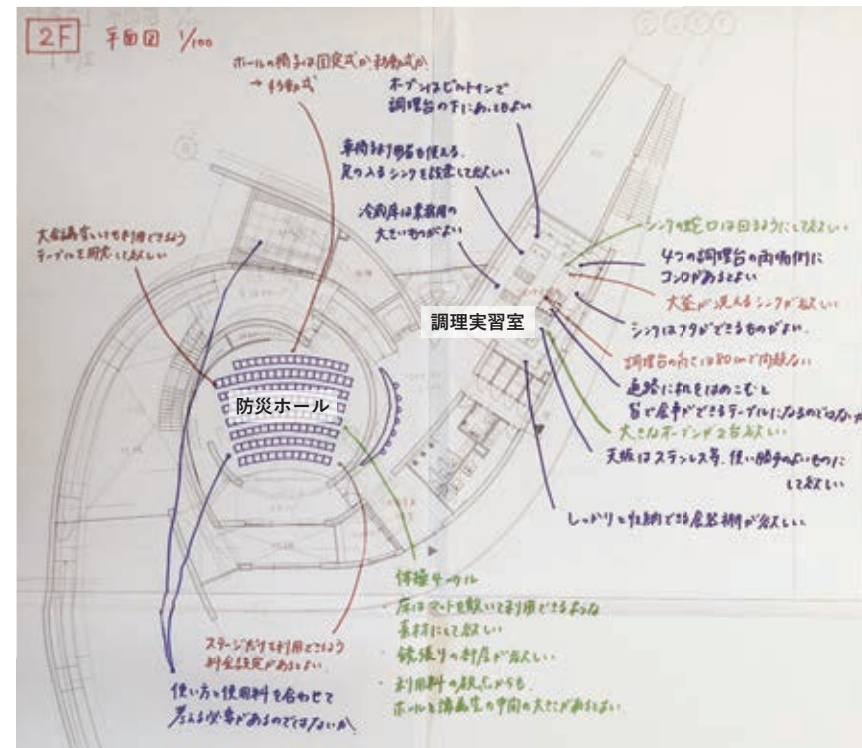
熊野町の皆さんとのワークショップや視察、審査員からのアドバイスを経て、基本設計案が定まりました。プロポーザル時のコンセプトを大切にしつつ、防災センターとしての機能や使い勝手に配慮した計画案です。ペット同伴で避難できる防災センターを実現するため、ペットの避難に詳しい専門家からの意見ヒアリングも踏まえ、部屋の仕上げや、水場や出入口の位置なども調整されました。

災害時はもちろん、日常時もイベント時も、熊野町の皆様に愛される場となるように提案されています。設備や構造、空調の考え方についても一通りの考え方が示されると同時に、実施設計に向けて引き続き検討を深めていくべきところも確認されました。



日常的に使える防災センターを考える - 第3回ワークショップ -

第3回目のワークショップは、2回目に引き続き日常的に公民館をお使いになっている方々に、より詳しいご意見をいただきました。たとえば調理室では、料理をした後に皆で食べられる場が必要なので作業台と食事テーブルが兼ねられる仕組みがあると良い、といったご意見や、防災ホールを体操サークルなど、ホールとしてだけでなく多様な用途で使うことを想定してみるなど、実際に使う時のことを皆で想像し、意見を出し合いました。一階のフリースペースは、日常時にフレキシブルに使えるスペースであるため、展示がしやすい壁などを設けることになりました。具体的に使うことをイメージするにつれて、利用料のことなど開館後のソフトにまで踏み込んだご意見もたくさんいただきました。



ワークショップで出た様々な意見を一覧化したプロット図

設計検討のプロセスで作成した模型やイメージ資料

